



AOKI 青木村 議会だより

第50号
平成25年8月1日発行



発行／青木村議会
編集／議会報編集委員会
印刷／(株)アオヤギ印刷

信州・青木村ふるさと景観100選

夫神岳(村松東 昼付より)

青木村議会へアクセス E-mail: gikai@vill.aoki.nagano.jp



村消防大会



青木小学校音楽会



青木村議会だより
第50号

平成25年 第一回臨時会	2
平成25年 第二回定例会	3~4
一般質問	5~9
議会の動き	10~11
住民の声	11
議会日誌	12

平成二十五年 第一回臨時会



議長就任あいさつ

内藤 賢二

このたび、改選に伴う五月の臨時議会において、議長に就任させて頂くことになりました。身に余る光栄のことと感謝申し上げますと共に、責任の重さを痛感しているところであります。

地方自治も大きな変革の時代に向っております。地方分権時代の中、議会の果す役割と責任は益々大きくなってきております。そうした事を踏まえ全力を尽し、その使命達成に努めます。

当青木村では、少子高齢化が進み、人口の減少が心配される所であり、自立を選択し歩んでいる青木村にとって人口の減少は致命的であり喫緊の課題であると認識しております。これらを踏まえ、村民皆様方の声を聞き、自らも研鑽を深め皆さんから信頼される議会を目指し、いくつかの課題に立ち向かってまいります。そして先人達の創り上げた歴史を重んじ、

更にみがきをかけ、新しい歴史を刻んでまいりたいと思います。

これからも村民皆様方の一層の御指導、御協力を賜りますようお願い申し上げます。議長就任の挨拶にかえさせて頂きます。

議会構成

平成二十五年第一回臨時会が五月七日に招集されました。議長・副議長・常任委員会委員等の選出について審議され、次とおり決定しました。

正副議長

議長 内藤 賢二
副議長 小林 和雄

常任委員会

総務建設産業委員会

委員長 居鶴 貞美
副委員長 沓掛 計三
委員 片山 順雄

社会文教委員会

委員長 小林 和雄
副委員長 川崎 攻
委員 金井とも子
宮下 壽章
山本 悟

議会運営委員会

委員長 居鶴 貞美
副委員長 川崎 攻
委員 金井とも子
片山 順雄
小林 和雄

一部事務組合

青木村及び

上田市共有財産組合議会議員

宮下 壽章
沓掛 計三
堀内 富治
山本 悟

上田地域広域連合議会議員

内藤 賢二
小林 和雄

議会報編集委員会

委員長 川崎 攻
副委員長 居鶴 貞美
委員 金井とも子
宮下 壽章

委員 沓掛 計三
片山 順雄
委員 居鶴 貞美
沓掛 計三
片山 順雄
内藤 賢二
堀内 富治

また、六月四日に開催された全員協議会において、消防委員に次の議員が選任されました。

居鶴 貞美
沓掛 計三
片山 順雄
内藤 賢二
堀内 富治



5月7日に開催された第一回臨時会の様子

平成二十五年

第二回定例会

平成二十五年第二回定例会は、去る六月四日に招集され、七日までの会期で行われました。提出された案件は報告事項三件、条例改正五件、寄附採納一件、平成二十五年一般会計補正予算、請願二件で、慎重審議の結果、請願については不採択となり、他の案件についてはすべて原案のとおり可決されました。また、一般質問では、五人の議員から村政に対する意見や質問がなされました。

村長就任あいさつ (要旨)



『元気で豊かな

村づくり』

北村 政夫

議員皆様方におかれましては、去る四月二十一日執行の青木村議会議員一般選挙において、厳しい選挙を勝ち抜き、見事当選されました事に、心からお祝いを申し上げます。また、深甚なる敬意を表しますと共に、今後の青木村活性のため、

ご活躍されます事をご祈念申し上げます。

さて私は、先の村長選挙におきまして、多くの村民の皆さんの温かいご理解とご支援をいただき、去る五月七日に村長に就任させていただきました。

早、約二ヶ月が過ぎましたが、

改めて責任の重さをひしひしと感じると共に、故郷の発展のために働く生きがいや喜びを感じているところでもあります。

私の村政執行の基本的な考え方は、時代の流れをくみ取り、現在・未来を見据えたものの見方・発想により、常に村民の目線に立ち、村民の皆さんの幸せと村の発展のため、全力投球する事であります。

そして村づくりの具体策は、人口減少に歯止めをかけ、雇用の場を確保し、観光振興や村の特産品を創り、財源を豊かにし、それをもちまして医療・福祉、そして子育て・教育の拡充を図っていく事であります。

従来からの村の大きな課題に加え、今年度から新たに北信セメント跡地の公園事業や、簡易水道再編推進事業五か年計画のビッグプロジェクトもスタートしました。

今後議員皆様と適度な緊張関係を持ち、第五次青木村長期振興計画でのキャッチフレーズであります

『次代に残そう

自然豊かな住みよい村を』の実現に向けて、協働してまいります。

今、混迷する国の経済環境の中で、地方自治体にとりまして

もなお自分の間、厳しい財政状態が続くものと自覚しております。今後も、議会の皆さんと共に村民の皆さんの命と暮らしを守る、安全・安心の諸施策を確実に実行してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

議案

報告第一号
専決処分を求める事項

国の地方税法等の改定等に伴い、青木村の税条例及び国民健康保険税条例の一部を改正するものと、地域の自主性及



新体制になった議会

左から宮下壽章議員・居鶴貞美議員・堀内富治議員・内藤賢二議員・沓掛計三議員・川崎攻議員
山本悟議員・金井とも子議員・小林和雄議員・片山順雄議員

び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律の施行に伴う条例の整備等八件と補正予算六件です。

補正予算のうち、一般会計補正予算第六号は、基金への積立金として一億円を計上するものです。一般会計補正予算第七号は、歳入歳出それぞれ一億二千七百十四万円を追加し、総額三十億五千五百四十万円とするもので、歳入の主なもの、村たばこ税八百万円の増、地方交付税八千七百九十万二千円の増、国庫補助金三千三百二十四万八千円の増など。歳出では、財政調整基金積立金一億円の増、公共施設整備基金積立金五千万円の増、総務費の公有財産購入費六百二十八万九千円の減、消防費の報償費五百六十一万九千円の減などが主なものです。

報告第二号

平成二十四年度青木村土地開発公社事業報告について

平成二十四年度は、前年度に取得した青木団地用地

を売却しました。平成二十四年度末の未処分利益剰余金は八千七百九十四万九千六百六円となり、翌年度繰越利益剰余金として処理されました。

報告第三号

平成二十四年度繰越明許費計算書の報告について

北信セメント跡地用地買収、障害者グループホーム補助金、村道牧寄田屋線ほか道路橋梁に係る工事・設計費が二十五年度までかかるため繰り越した事業費及び財源の計算書で、議会の承認を求めます。事業費は一億千六百三十五万二千円です。

議案第一号

特別職の職員で常勤の者等の給与に関する条例の一部を改正する条例について

平成二十五年七月から平成二十六年三月まで、村長の給料月額を十二%減額するものです。

議案第二号

青木村非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例について

二十年以上勤務した団員の退職報償金の支給額について、五年区分から単年度区分に細分化するものです。

議案第三号

青木村新型インフルエンザ等対策本部条例について

国の法律施行に伴い、新型インフルエンザ等に係る対策本部の設置について、条例を制定するものです。

議案第四号

一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について

新型インフルエンザ等に係る派遣手当の支給について追加するものです。

議案第五号

寄附採納について

次の方から寄附の申し出があり、ありがたく採納させていただきます。ことになりました。

- 一、有限会社 東郷堂

代表取締役社長

鈴木 哲 氏

自動体外式除細動器

(AED)：十二台

救命処置機器の整備充実のため

議案第六号

平成二十五年青木村一般会計補正予算について

歳入歳出に四千五百八十九万九千円を追加し、総額を二十四億三千四百八十九万九千円とするもので、歳入では前年度繰越金二千六百五十二万四千円、教育費国庫補助金三百六十万円、商工費県補助金八百万円が主なものです。歳出では、緊急雇用創出事業による防災地区カルテ、災害時の職員初動マニュアル等の作成委託料として八百万円、未熟児療育医療給付費負担金三百万円、消防防炎用備品購入費として消防施設費三百三十九万三千円、村営プール改修工事に伴う設計監理委託料四百七十七万八千円、その他乾燥野菜の研究に係る調査費の計上などが主なものです。

発議第一号

青木村議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例について

平成二十五年七月から平成二十六年三月まで、議員報酬を二%減額するものです。

請願・陳情

六月定例会に提出された請願・陳情は次のとおりです。

請願第一号

年金二・五%削減中止を求める請願書について

反対多数により不採択

請願第二号

国に対し、消費税増税中止の意見書を提出することを求める請願書について

反対多数により不採択



障害者グループホーム視察

第二回青木村 議会定例会

一般質問

山本 悟議員

一、北村政夫新村長がめざす新生「青木丸」の
進路「村づくり」について

一、北村政夫新村長がめざす新生「青木丸」の進路「村づくり」について
去る四月二十一日執行された村長選において、当初無投票になるのではとの見方か

ら直近になり一転して北村候補予定者も「あるべき」と望んでいた選挙戦になりました。北村候補は六十八%余、二百八十四票を獲得し見事当選されました。重ねておめで

とうございます。

時間の許す範囲で村政全般に亘り施政方針を伺います。

(問) 五月七日村長に就任され約一ヶ月、今の心境は

村長答弁

責任の重さをひしひしと感じつつ故郷のために働く生きた甲斐を感じている。

先頭に立つて村をリードし勇気ある決断と実行力スピード感を大事にする。

課題である財政は「貧しくはないが豊かではない」に基軸を置いて人口減少に歯止めをかけ、雇用を確保し観光振興や特産品を作って財源を豊かにする。その財源をもって福祉・教育・医療等に充当したい。村政に近道や特効薬はないと信じる。

(問) 理念について伺う

村長答弁

時代の流れをくみ取り、現在未来を見据えたものの方・発想により常に村民の目

線に立ち、住民の幸せと発展のため全力投球する。

(問) 財政及び自立の観点から村の現状をどう見ている

村長答弁

前宮原村政が厳しい財政の中で、より多くの補助金等の交付を受けたり十八億円の基金を積み立てる等ハード・ソフトにより多くの施策をしながら健全財政を維持されてきた。ただ、自主財源(村税)が少なく、危惧している。

(問) 前宮原村長は、行財政の合理化・スリム化の継続、課題に向っての選択と集中、自立スタンスの継続について次期村長に継承して欲しい旨の発言をされていた。北村新村長はどう受け止め生かされるのか

村長答弁

何と言っても平成の合併に組することなく自立を選択された英断を評価したい。

今後、広域連合、定住自立圏等の広域行政に期待し、参画した中で自立を堅持継承していく。

(問) 理念実現のため健康・福祉、産業振興、教育・文化、安全・安心、環境保全・生活基盤、自治・共同の六項目について具体的な施策を詳細に

示されている。広範に亘って伺った中で私に許された字数の中で活字にする。

定数を大幅に下回る一般職、副村長を置かない体制及び議会内閣制について

村長答弁

私の公約、十ヶ年計画等の履行の観点から車座集会等での民意や職員とのヒアリング等参考にして熟慮している。

(問) 北信セメント跡地の再開発及び道の駅一帯の直売所、観光センター、加工所等の一元的管理及び独立採算法人化、周辺に夢の温泉施設整備を

村長答弁

跡地については民意をくみ、限られた予算の中で防災機能を持たせ、道の駅と連動した総合的な公園にする。

(問) 村長の経歴、パイプ、情熱等村の活性化の夢とも言える企業誘致実現を

村長答弁

村長になる前も山洋電機の跡地について山洋さん自身の再稼働、他社への働きかけ等鋭意活動してきた。情報発信を継続する事が大事であり今後も厳しい環境ではあるがトップセールスをしていく。



新体制になった青木村のこれからは

堀内 富治議員

一、北村村長就任の抱負と決意

二、少子高齢化の進行と総合対策について

三、産業振興と地域の活性化について

四、資源循環型施設(ごみ焼却施設)の状況について

について



あおきっこ広場で元気に遊ぶ園児たち



老人体育祭で元気にプレーする高齢者

二、少子高齢化の進行と総合対策について

(問) 深刻で大きな問題だ。

出生者は少く、高齢者は増えて行く、高齢化率は、三十四%で、三人に一人、後期高齢者は五人に一人、一人暮らしの高齢者は百五十四人です。あらゆる面から総合的に対処して行くことが重要だ

村長答弁

高齢化は年々進み、大きな課題だ。生産に関わる人口も減少しているの、役場の組織を上げて取り組みたい。

(問) 対策として婚活、結婚、出産、子育て、教育が重要ポイントだが、定住者の働く場所の確保と又結婚相談についての考えは

村長答弁

消防団員を中心に、従来以上の取り組みをしたい。子育てや教育は、他市町村より進んでいる面があるので更にPRをして行きたい。

(問) 青木村とほぼ同規模の、下伊那郡下條村を調べて来た。人口は増えている。すすめ方がすばらしい。若者住宅は百七十八戸(青木村九十六戸)家賃は安い。保育料、給食費、医療費の助成額が大きい。村の職員は青木村より十

人少ない。村長の強いリーダーシップがある

村長答弁

下條村の財政基盤はしっかりしている。長年の積み重ねだ。地道に勉強し努力したい。

(問) 出生者の減により、やがて、一学年二十人台になる。学校経営に問題はないか

二十人の学級が出来ることになるがしばらくは良い。青木村の教育は評価が高い。地域をあげて教育・子育ての充実を図りたい。特に中学校の部活については教育委員会として方向づけをしたい。

教育長答弁

(問) 介護対象者も増えている。施設介護を希望している。介護、国民健康保険の状況は

介護保険給付費は増えている。将来介護保険の見直しと、国民健康保険も医療費の増加により、幅広く保険事業を強化しながら対応して行きたい。

住民福祉課長答弁

三、産業振興と地域の活性化について

村長答弁

(問) 産業全体に元気がない。産業を支える人的体制の弱体化が大きな問題だ。雇用の創出を基本に、農業振興で遊休農地対策、特産品づくり、

工業は、村内で最も大きな産業で活性化を期待しているが後継者がいない。工場誘致は観光と流通事業では利用者の減少だ。自主財源確保のためにも村のPR活動が重要だ

村長答弁

これからの村の注目する産業は農業と考えている。特産品目は、乾燥野菜も含めて考えている。工業の活性化は難かしいが、工業製品や特産品の展示コーナーを設け理解を深めたい。工場、企業の誘致は双方の信頼関係が大切で、更に情報収集にも努め誘致活動をしたい。村の中には観光資源が多い。広域的、総合的な観光をすすめて行きたい。

四、資源循環型施設(ごみ焼却施設)の状況について

施設の状況について

(問) 上小管内のごみ処理施設は永年の懸案事項である。候補地の絞りこみも終了し、説明会も実施された。その後の動向は

村長答弁

五月二十日、関係する自治会、団体より清浄園、説明会、施設建設の内容、地域振興について質問状が出ており検討し回答書の作成をすすめている。

片山 順雄議員

- 一、青木村の観光について
- 二、子育て支援と村営プールについて
- 三、国道県道について



整備が望まれる国道 143 号



村観光の振興に一役かっている
青木村のマスコットキャラクター「アオキノコ」

一、青木村の観光について

(問) 村の観光としての受皿が青木村にはまだ整っていないので、この地域にあるものを見直していくのが観光だと思ふ。村の中心の開発整備でなく、地域に地元の人が働ける場所(施設)を村で設け、ここを観光に結びつけたらどうか、例えばここで食事の提供、野菜山菜の直売、加工等に、又村内の観光案内、情報発信等に使える場所に来れる、又今ある体験施設の改善、充実させ、もつと活発に利用する

ように検討願いたい。青木村のどかな里山の田園風景全体をいやしのテーマパークにするような仕掛け、演出、ストーリーが必要、専門家も交え検討したらと考える

村長答弁

観光資源が点々とあるものを一つに集め今あるものに付加価値をつけ柱としていく。青木村観光事業推進協議会を商工会長、田沢杏掛温泉旅館組合長、直売所組合長と村長四人で発起人会を立上げ進めていく。又信州青木村観光サポーターズクラブ(友の会)を立上げ村の特産品を中心に売込んでいく。

二、子育て支援と村営プールについて

(問) 小学生の村内ホームステイとスキー、スノーボード教室の自己負担分の全額補助についてと村営プールの開設期間延長について

教育長答弁

ホームステイでは宿泊先に村で一律一万五千円補助、参加者には三千円負担してもらっているが、このうち二百五十円保険料、残り二千七百五十円を宿泊先に支払っており、一食分約四百五十八円の負

担は妥当と思われるが今後の課題としたい。スキー、スノーボードは、上田市、長和町とほぼ同額であり今の所妥当と思ふ。今後の課題とする。村営プールの開設期間を長期化する事で水質浄化の薬品代、人件費、アルバイトの確保等解決する事が出てくることを踏まえ検討する。

三、国道県道について

(問) 青木峠トンネルの早期実現化の見通しと国道百四十三号の整備について、又県道十二号の青木村から鹿教湯に抜ける道路整備の見通しについて

村長答弁

トンネルの事は県知事の頭にあり、今迄通りの交渉ではだめなので議会の皆さんにも協力してもらい進めていく。百四十三号の村内の片側歩道の整備はほぼ完了している。今年度は川西方面から青木村殿戸に向けて整備の予定。県道十二号豆石峠について二十三年度釜房から先八百メートル工事が済んでいる。二十五年度は二千万円着工予定がある。道路については今後取組んでいく大きな課題と認識している。

川崎 攻議員

- 一、村長の政治姿勢について
- 二、小学校・中学校の保護者負担軽減について
- 三、北信セメント跡地利用問題について



北信セメント跡地利用について

一、村長の政治姿勢について
(問) 重点政策を六項目掲げているが一番の課題は何か
村長答弁 甲乙つけがたいが、「元気で豊かな村づくり」、人口減少に歯止めをかけ、雇用の場を確保し、観光客の誘致、教育、福祉の充実に努める。そのためにも村民との定期的な車座集会を開いていきたい。
(問) 重点政策遂行について
 国・県の政治動向も大きく左右する。日本のTPP参加交

渉について反対表明しているが、反対の立場で良いのか
村長答弁 四月二十八日、県の町村長会議で全員がTPPに反対表明した。又地方六団体で国に陳情もした。その立場で共にする。

(問) 具体的な行動を考えているか
村長答弁 農協が反対決議をしているので行動を共にしていきたい。

(問) 消費税増税について、村長は賛成でも反対でもないといっているが、住民や低所得者は大変だが
村長答弁 国は低所得者対策をもっとすべきである(食料・衣料など)政府の景気浮揚二%がなければならぬ。見守っていき

(問) 原子力発電は直ちに廃止すべきと思うが、村長の考えは
村長答弁 今の電気が消えたらどうなるのか、日本の工業はどうなるのか…重要な問題だ。

(問) 今、安全な原子力発電はあるのか(稼働しているのは、一ヶ所)
村長答弁 国が調査している。

(問) 小学校体育館への太陽光発電設置の進捗状況は
総務課長答弁 二度申請したが不採択、改めて申請している。

(問) 老人福祉問題について提案をしたい。五月二十日に原村へ「医療費特別給付金制度」の視察に行つて来ました。
 六十五才以上の医療費が無料化が、どうして実現できているのだろうか、人口は七千八百六十人、高齢者人口は二千百三十七人(率二十七・二%)。これらに必要な財源は八千四百三十三万三百四円だそうです。全国に誇れる制度として、各地から視察に訪れているそうです。

青木村も素晴らしい子育て支援、十八才までの医療費無料化制度がありますが、この制度が実現できれば「もっと輝き、日本一住みたい村」になり、豊かな村づくりをめざしたいと思いますが、村長実現をめざしてもらいたいが
村長答弁 この段階でいえる状況では無いが、高齢者が生き生きできるようにしていきたい。

(問) 荒廃地が増え、鳥獣被害も多く、大変な状況だが、農

業支援制度はあるのか
建設産業課長答弁 農の支援制度、農の里親支援制度はある(上小農業支援制度)年間で百五十万円。

二、小学校・中学校の保護者負担軽減について
(問) 二十三年度の就学援助を受けた小・中学校は過去最高の十・六%に達したので、子供達の学びにも大きく影響しているとし、保護者の経済的負担を少しでも減らすよう各校・各市町村に呼びかけをしてきた。しかしながら、各学校徴収金は過去最高になったとしているが(長野県民新聞)、青木村の小学校・中学校とも、県平均を上回っているが、教育長の考えは

教育長答弁 数字を調べてみたが、分りづらい。町村により振り分け方が異なっていることも理由。村の徴収金は高いわけでもないが、安いわけでもない。

三、北信セメント跡地利用問題について
(問) 村民の声を聞いているが公園で良いのか、全村民のアンケートを行ってほしいが
村長答弁 公園としての方向で取組む。

居鶴 貞美議員

一、北村村長の施政方針について
二、自主財源の確保について

私は青木村議会議員として、二期目の活動をさせて頂くことになり、一期目の四年

間で勉強や研修した事を含めて、二期目の四年間では、自主財源の確保と少子高齢

化対策を命題として積極的な議員活動に取り組んで参る所存です。

一、北村村長の施政方針について

(問) 行政経験の立場から、青木村の全体像はどうみているか

村長答弁

自主財源の確保が最重要課題で村づくりの根っ子である。コンパクトな村で緑豊かな自然、誇れる文化と歴史、高い志を持った村民の皆さん。自然災害が少なく、首都圏に近い。こまわりのきく行政組織を生かし、住みたくなる村づくりをしてまいりたい。

(問) 青木村の強い点、弱い点をどのように分析されているか

村長答弁

自然が豊かで、生活環境の良さが強い点。少子高齢化が県平均より進んでいる事、工場が撤退し、働く場が少ない事が弱い点と思う。

(問) 六つの政策を掲げられているが実現するポイントは

村長答弁

①職員と一緒に組織、体制づくりを考えていく②職員が多忙であり、村民に依頼、民

間活力の導入、業務委託等精査していく③情報収集、発信力のアップを図っていく事がポイントである。

(問) 自立を目指す特徴ある施策、実行ポイントは

村長答弁

人口減少にブレーキをかける。婚活事業の推進、雇用の場の確保として、農業に活路を見いだしていく。

(問) 第五次青木村長期振興計画がスタートしている。村長の将来ビジョンはどうか

村長答弁

委員として関わってきた。公約とイコールで、元気で豊かな村づくりに努力していく。

(問) 財政シミュレーションについての考えは

村長答弁

非常に難しい。交付税は誰もわからない。地方自治体がコンサルタントに委託しても結果がうまくいっていないのが実情。青木村は自主財源が少なく交付税頼みであり、よくみえないのが本音。シミュレーションを行うには勇気がある事である。

二、自主財源の確保について

(問) 人口増加が有効な手段である。生産年齢人口(十五

才～六十四才)の増加策は

村長答弁

生産年齢人口の増加は同感である。国レベルでの課題で税制・財政面の整備を働きかけていく。村において働く場の確保が急務である。

(問) 「自治体経営」が言われはじめています。村長の考えは

村長答弁

所信表明で使っている。①住民の参加②元気な高齢者の人的資源の発掘と活用③歳入歳出に見合う確実な行政を行う事が肝要である。

(問) 六月現在、約十八億九千八百億円の基金があるが運用についての考えは

村長答弁

リスク分散が必要。運用益について情報を頂く中で検討。

(問) アセットマネジメント(資産の維持管理)の導入を提言したいが

村長答弁

計画的、効果的なメリットがあると認識している。ただ、こまわりがきき、めくばりができる中で、もう少し研鑽が必要と考えている。長期的な考えの中では、考え方を踏襲していく。



農業の活性化を図る政策を望む



め 議会の動き

町村議会初当選議員 研修会

初当選の議員が議会活動を行おう上で必要な基本的知識を習得し、議会の活性化と適正な議会運営を図るための研修会が、五月二十三日に安曇野市の豊科ふれあいホールで開催されました。

主催者の長野県町村議会議長会の会長久保田三代野沢温泉村議長からの挨拶の後、新潟県立大学国際地域学部準教授の田口一博氏から「地方議会の制度と運営」と題しての講義がありました。

日本国憲法や地方自治法に基づき、議会の機能、議会として行うことが原則の調査活動、議事・議決を成立させるための議員の役割、首長等執行機関の「セカンド・オピニオン」の提供、議員は、出自・立場・代表性に問わず住民全体の代表として議

会内民主主義に基づき合理的で正しい判断をし、世論になっけない声に注目し、自治体内外の情勢を読み質の高い議論をするべきである等多岐に亘り、議員としての自覚、責任を改めて重く感じた研修会でした。

青木村及び上田市共有 財産組合議会臨時会

五月二十三日、平成二十五年第一回臨時会が青木村役場で開催されました。

青木村議会選出の議員が改選されたことによるもので、慣例により議長は青木村より堀内富治議員が選出され、監査委員には沓掛計三議員の選任について同意されました。

尚、議員定数は規約により十人で、青木村より四人、上田市より六人と定められております。

全国町村正副議長 研修会

五月二十八・二十九日東京メラルパルクホールで、正副議長研修会が、「これからの町村議会のあり方」をメインテーマに開催されました。

一日目は、東京大学大学院の金井利之氏の町村議会に期待すると題して、「自治体議員不信をいかにして払拭するか」「地域包括ケアの担い手として住民の信頼を勝ち得ることができるか」等の基調講演があり、つづいて北海道鹿追町、岩手県西和歌町、茨城県大洗町、兵庫県播磨町の議長等によるシンポジウムが行なわれました。この中で、議会白書の発行、まちなか会議、子供・サンデー・ナイター議会の開催、定数・報酬・活動全般にわたる案件と議長の諮問に応じ、町民で構成された第三者審議会設置等の報告があ



りました。

二日目は、「歴史に見るリーダーの条件」と題し、歴史家の加来耕三氏の講演があり、「歴史は活用してこそ意義がある」「使えない歴史は意味がない」と言う観点から話しがありました。つづいて、TBSテレビ報道局解説専門記者室長の杉尾秀哉氏による「政治・経済の展望」をテーマに「報道から見たこれからの日本の姿について」講演があり、この二日間、各町村議会が抱える問題点等の意見交換もあり有意義な研修会でありました。

りました。

青木村教育委員との 懇談会

社会文教委員会

議会社会文教委員と青木村教育委員との懇談会が、六月二十一日文化会館において開催されました。

最初に沓掛教育長から青木村教育委員会のマネージメントが紹介され、青木村教育の特色について説明されました。

青木村の教育は、上原久夫教



小学3年生の役場見学から(議場にて模擬議会を体験)

育長時代から保小中一貫教育を柱に教育をされているのが大きな特徴で毎年十二月に発表する「子育てフォーラム」を九年前から実施しており、教育に協力している多くの団体や村民の方から広く参加を呼びかけています。

青木村教育委員会の重点として、①保小中一貫教育、②多様な他者や自然とのかかわり、③学力・体力向上、④子どもと向き合う時間の確保、⑤一人一人を大切にすることを重点として実践されており、全国から視察に訪れています。

特に学力向上に向けた取り組みでは、平成二十二年に小学校の四年生以上にタブレットパソコンを一人一台配備し、個々の子どもの進度に合わせた学習ができるシステムを構築し、また中学校に理科と英語科の先生を加配し、中学校の指導の充実だけでなく小学校へ出向いて理科、英語の学習を行っています。

社会文教委員からは、生徒の減少での部活動の問題点、また子ども達が青木村から離れた時の対応等の問題について意見が出されました。それぞれ市町村によって規模や人員など様々であるので、青木村は青木村と

してできる体制づくりが必要であるとの事でありました。

青木村農業委員との懇談会

総務建設産業委員会

六月二十四日に議会総務建設産業委員と農業委員との懇談会が、青木村役場の会議室にて開催されました。情報提供として、

- 一、農地部・農政部の活動について
 - 二、女性委員の活動について
 - 三、遊休荒廃農地について
 - 各集落の状況報告
 - 四、有害鳥獣防止柵について
 - 五、担い手育成について
- 取り組みと課題

以上の説明がありました。農業の現況は、遊休荒廃地の増加、担い手の高齢化、鳥獣被害等々、極めて厳しい状況が続いております。農業振興や地域の活性化等について意見交換を行いました。

六次産業化への取組、特産品の開発、草刈の組織化等の実現に向けてお互いに知恵を出し合っ取り組んで参ります。

今後とも、農業委員との意見交換を通じて地域の活性化を図る所存です。

中挾地域住民支え合い事業

“おたや会”事務局長 荒川 元男
(ボランティアの会・会長)

中挾地区で地域住民支え合い事業“おたや会”が設立されて早や3年が経過しました。

高齢者の方をお迎えしての「お茶飲み会」も9回開催、草刈りや車による通院・買い物の送迎も定着してきており、昨年から実施の「緊急連絡カード」「緊急連絡メモ」の普及率も上昇し、ゆっくりとした歩みですが事業は順調に推移し、住民の絆も強くなってきているように感じます。これはボランティア・スピリットの塊のような小山伸尚会長の存在とそれを支える役員の方々の尽力の賜物と思います。

その後、入奈良本・沓掛の2地区が正式に事業を開始、青木地区でも近々発足となりそうです。他の地区でも早く立ち上げていただき、全地区にこの事業が拡がり連携することを願っています。

思うに議員が地区の利益代表でいいかどうかの是非はともかくとして、選良たる村議がリーダーシップを発揮し、当事業を正しく理解し、積極的に関わった例は一部地区を除いてあまり聞こえてまいりません。議会における討論も殆ど無いようで残念です。

さてさて最大人口を擁する当郷区在住の3人の議員の皆さん、地区の支え合い事業の設立発起人になりませんか。幸い村長・社協会長・民生児童委員長もお住まいのことですし、ボランティアの会員は前会長を含め役員経験者も多数、合計12人の会員さんもおられ、心強いかぎりだと思います。今すぐ決断されても、事業の開始は早くても6ヶ月は先になりますので、お急ぎください。

住民の声



地域住民支え合い事業の設立を

議会日誌

5月

- 7日/臨時議会(議長)
- 11日/商工会通常総会(議長)
- 13日/上田地域広域連合議会代表者会
- 23日/初当選議員研修会
- 23日/青木村及び上田市共有財産組合臨時議会(共有財産組合議員)
- 24日/上田地域広域連合議会臨時議会(正副議長)
- 25日/上小地区障害者スポーツ大会(議長)
- 28日/夏まつり実行委員会(議長)
- 28日~29日/全国議長会議長・副議長研修会(議長)
- 31日/議会運営委員会(議運委員)
- 31日/国道143号改良舗装期成同盟会総会(議長)
- 31日/旅館ホテル組合会上小支部定期総会(副議長)

6月

- 4日/議会開会
- 5日/議会一般質問
- 7日/議会審議採決
- 7日/議会報編集委員会(議会報編集委員)
- 15日/小学校自転車クラブ地区大会(議長)
- 16日/女性団体連絡会総会(議長)
- 19日/青木・麻績インター・新町間県道整備期成同盟会監査(議長)
- 21日/小学校音楽会(議長・社会文教委員)
- 21日/教育委員との懇談会(社会文教委員)
- 22日/カントリーロードあおき開所式(議長・社会文教委員長)
- 22日/商工会工業部会マレットゴルフ大会(議長)



カントリーロードあおき開所式(6月22日)

- 23日/村消防大会(正副議長・消防委員)
- 24日/農業委員との懇談会(総務建設産業委員)
- 28日/議会報編集委員会(議会報編集委員)

7月

- 5日/村内工事箇所視察
- 5日/長和町議会との研修会
- 7日/上小消防大会(正副議長・消防委員)
- 10日/広域議会議員管内視察(正副議長)
- 22日/農産加工施設運営組合通常総会(議長)
- 23日/青木・麻績インター・新町間県道整備期成同盟会総会及び県要望(議長・正副総務建設産業委員)
- 24日/丸子信州新線整備促進期成同盟会総会(議長・正副総務建設産業委員)
- 25日/議員研修会
- 25日~26日/広域連合議会行政視察(正副議長)



長和町議会との研修会(7月5日)



上小消防大会(7月7日)

8月 今後の予定

- 2日/広域議会議員代表者会(議長)

編集後記

第五十号の議会だよりから、新しく選出された議会報編集委員六名による新体制がスタートしました。宮原村長が勇退されて北村村長が誕生致しました。議会においては、昨年の十二月に議会基本条例が制定されました。議会及び議員の活動における最も基本的な規範で住民の皆様の負託に的確にこたえて、住民福祉の向上及び行政の伸展に寄与することを目的としております。議会だよりでは議会情報を積極的に提供し、住民の皆様が興味を持ち満足できる会報を目指しております。村民の皆様からのご意見、ご要望をお寄せいただければ幸いです。

(S・I)

議会報編集委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 川崎 攻 |
| 副委員長 | 居鶴 貞美 |
| 委員 | 金井とも子 |
| | 宮下 壽章 |
| | 沓掛 計三 |
| | 片山 順雄 |